

# H. J. ラスキ略年譜 — 1893年～1950年 —

今 市 隆 一

第一工業大学 講師

## An abbreviated chronological list of events in Harold J. Laski's life, 1893-1950

Ryuichi Imaichi

Instructor

### Abstract

Harold J. Laski (1893–1950), professor of political science at the London School of Economics, was perhaps the best known political scientist of his era. As a energetic writer (“In less than thirty-five years he published about thirty books and over sixty pamphlets and chapters in books, as well as hundreds of articles for scholarly periodicals. ”— Deane), inspiring teacher, prominent member of the Executive Committee of the British Labour Party. This chronological study carefully traces the footsteps of Laski. Therefore, this is a chronological list of his glory and failure.

**Key words :** *Harold J. Laski*

1. 本年譜は、左側には年月日、中央にはラスキの個人史、右側には若干の世界史の事項を含むイギリス政治史を収めた。
2. 年の区切りは、西暦を基準とした。
3. 本年譜は、1953年まで収めた。
4. 同一年の事項・著書・論文は、事項・著書・論文の順で配列した。

年 月 日	H. J. ラスキ 個人史	イギリス政治史
1893. 6. 30	ハロルド・ジョセフ・ラスキ (Harold Joseph Laski) マンチェスターの富裕なユダヤ商人の家庭に次男として生まれる。	1894. 英仏協商
1909.	盲腸炎の手術をうけ、療養中にフリーダ・ケリー (Frida Kerry) を知る。フリーダの話に感動したラスキは優生学に興味をもつようになり、ま	1907. 英露協商. 英領ニューージーランド連邦成立. 大英帝国会議の初め
1910. 7.	優生学に関する論文 Scope of Eugenics. をウェストミンスター・レビューに発表。	1910. 英領南アフリカ連邦成立
11.	オックスフォード・ニュー・カレッジに入学、歴史と政治学を専攻。ジョージ五世の戴冠式があり、フリーダはその見学のためにロンドンにやってきて、ラスキと再会し、二人は激しい恋愛ののち婚約。	
	歴史の奨学金給費生の試験に合格。	
1911.	在学中、ダイシー、フィッシャー、バーカー、メートランド等の学者から学問的教示を受け、他方、ランズベリー、ネヴィンソンらの労働党員によって社会主義思想や運動への目を開かれた。	1911. 議会法制定 (上院の否認権を制限)
1911.	二人は、両親の反対にあったため、スコットランドに逃れて結婚式をあげる。	
1914.	近代史で最優秀の成績をもってオックスフォードを卒業し、ランズベリーの世話で、当時彼が編集に当たっていた労働党の機関紙「デーリー・ヘラルド」の論説記者を2ヶ月ほど勤める。第一次世界大戦が勃発するや志願兵として出征しようと試みるが、心臓が悪いという理由で、兵役につくことを拒否される。	1914. 第1次世界大戦起る
	ハーバート・フィッシャー教授の紹介によりカナダに渡り、マックギル大学で近代史の講義 (1914-16) を受け持つ。	1914. 9. アイルランド自治法成立
1915. 7.	Nation に論文 Personality of the State. を発表。	1915. 12. 連合国パリ軍事会議
1916.	フェリックス・フランクフルター教授の認めるところとなり、ハーバード大学に招かれ、近代史の講義 (1916-20) をおこなう。以後フランクフルター、ホームズ、リップマンらと親交を結ぶことになる。	1916. 5. ユトランド沖海戦
7.	New Republic に論文 Apotheosis of the State. を発表。	1916 ~ 22. ロイド・ジョージ内閣
1916. 8.	American Political Science Review に論文 Political Theory of the Disruption. を発表。	
10. 19	Dial [シカゴ] に論文 Two Candidates. を発表。	
11. 18	New Republic に論文 Disraelis Democracy. を発表。	
12. 16	New Republic に論文 Sovereignty and Centralization. を発表。	
30	New Republic に論文 Sociological Romance. を発表。	
1917.	『主権の問題の研究』(The Problem of Sovereignty) 刊行。	1917. 大戦中、王室名を [ウインザー家] と改称
11. 17	New Republic に論文 Literature of Politics. を発表	1917. 11. ロシア革命
1918. 10.	Bookman に論文 Literature of Reconstruction. を発表。	1918. 11. ドイツ革命. 独帝退位, ドイツ降伏, イギリス普選施行
12.	Bookman に論文 Background of Peace. を発表。	
28	New Republic に論文 Books and Things. を発表。	
1919.	ボストン市の警官ストライキが勃発するや、ラスキは警官の立場を援護する演説を行う。	1919. ヴェルサイユ条約, ドイツ, ワイマール憲法, 第3インターナショナル結成
	『近代国家における権威』(Authority in the Mordern State) 刊行。	
2.	Proceedings of the Academy of Political Science に論文 British Labor Reconstruction Proposals and the American Labor Attitude. を発表。	
5. 31	Dial に論文 Federal Suffrage Amendment. を発表。	
6.	Political Science Quarterly に論文 Political Ideas of James I. を発表。	
11. 1	School and Society に論文 Boston Police Strike and Harvard Teachers ; utterance of H.J.Laski. を発表。	

年 月 日	H. J. ラスキ個人史	イギリス政治史
1919. 12.	Philosophical Review に論文 Pluralistic State. を発表.	
1920.	ウォーラス教授の後をうけて、ロンドン政治経済大学 (London School of Economics and Political Science) の政治学の講義を担当.	1920. 1. 国際連盟正式
	『イギリス政治思想—ロックからベンサムまで』 (Political Thought in England from Locke to Bentham) を刊行.	成立
	2. 18 New Republic に論文 Temper of the Present Time. を発表.	
	7. Yale Review に論文 Democracy at the Crossroads. を発表.	
	9. 11 Nation に論文 British Labor and Direct Action を発表.	
	10. 2 Sorvey に論文 Recent English Books on Social Science. を発表.	
	10. 23 Sorvey に論文 British Coal Dispute. を発表.	
1921.	『主権の基礎』 (The Foundations of Sovereignty and Other Essays) 刊行.	
	『カール・マルクス』 (Karl Marx : An Essay) 刊行.	
	1. 5 New Republic に論文 Lord Kitchner. を発表.	
	8 Survey に論文 Prospects of the Fisher Act. を発表.	
	22 Survey に論文 England out of Work. を発表.	
	2. 9 Nation に論文 Alternative to Revolution in England. を発表.	
	26 Survey に論文 British Labor's Future. を発表.	
	4. 2 Survey に論文 More Unrest among British Miners. を発表.	
	22 Nation に論文 British Coal Strike. を発表.	
	5. 21 Nation [ロンドン] に論文 Radical Revival. を発表.	
	28 Survey に論文 Six Weeks of Struggle. を発表.	
	10. 1 Survey に論文 Cardiff Meeting. を発表.	
	15 Survey に論文 England's Unemployed. を発表.	1921. 12. 四ヶ国条約
1922.	『バークの書簡』 ラスキ編 (Letters of Edmund Burke)	1922. 2. エジプト独立
	3. 6 Nation (ロンドン) に論文 Little Tour in France. を発表.	
	7. 15 Nation (ロンドン) に論文 Prime Minister's Honors lists. を発表.	
	11. 25 Nation (ロンドン) に論文 New House of Commons. を発表.	
	12. Fabian Tract に論文 The State in the New Social Order. を発表.	
1923.	この年の選挙で労働党員として初の応援演説を行ない、以後労働党左派の理論的代表として、縦横の政治活動を展開.	
	9. Foreign Affairs に論文 Lenin and Mussolini. を発表.	
1924.	『ミル自伝』 ラスキ編 (Autobiography of J.S.Mill,with an Appendix of Hitherto Unpublished Speeches and a Preface by H.J.Laski) 刊行.	1924. 1. 第1次マクドナルド労働党内閣 (~8)
	『暴君に対する自由の擁護』 (The Defence of Liberty against Tyrants) —ラスキによる翻訳と解説— を刊行.	
	1. 16 Nation に論文 British Labor Faces Power. を発表.	
	3. 12 Nation に論文 British Labor at Work. を発表.	
	Fabian Tract に論文 The Position of Parties and the Right of Dissolution. を発表.	
	6. World Tomorrow に論文 Appeal to America. を発表.	
	10. 1 Nation に論文 Trade Union Congress. を発表.	
1925.	『政治学大綱』 (A Grammar of Politics) 刊行. 従来の研究は学説史的研究であり、他説の批判が主であったが、ここで積極的に自説を体系的に展開し、いわゆる、多元的国家論が述べられ、社会主義秩序へも言及している.	
	2. American Political Science Review に論文 Political Science in Great Britain and France. を発表.	
	Fabian Tract に論文 The Problem of Second Chamber. を発表.	
	7. 8 New Republic に論文 English Politics of Today. を発表.	
	Fabian Tract に論文 Socialism and Freedom. を発表.	
	12. 16 New Republic に論文 Great Britain and the Communists. を発表.	1925. 10.~12. ロカルノ会議

年 月 日	H. J. ラスキ個人史	イギリス政治史
1926.	グレアム・ウォーラスの跡を継いで政治学の正教授就任。さらにフェビアン協会員となり労働党に入党。また産業審判所委員も兼ねる。この年のゼネラル・ストライキに際しては、坑夫側を援助。	
3.	Harvard Law Review に論文 Judicial Review of Social Policy in England. を発表。	
12.	World Tomorrow に論文 Geography of Occupation ? を発表。	
1927.	『ヘンリー・テイラー』(Henry Taylor, The Statesman, with an Introductory Essay by H.J. Laski) 刊行。	1927. 5. 対ソ断交 6. ジュネーブ軍縮 会議不成功
8. 20	China W.R. に論文 Present Tendencies in British Politics. を発表。	
1928. 1.	Fabian Tract に論文 The British Cabinet - A Study of its Personal 1801-1924. を発表。	
2.	American Political Science Review に論文 Personnel of the British Cabinet, 1801-1924. を発表。	
6.	Harvard Law Review に論文 Procedure for Constructive Contempt in England. を発表。	
1929.	委任立法委員を兼ねる。	1929. 世界的経済大恐慌 起こる
1930.	『近代国家における自由』(Liberty in the Modern State) 自由の抑圧に鋭い理論的検討を加え、権力と自由の矛盾を考察、自由と平等、平和の不可分性を指摘し主権国家の原理をも批判。 『フランス革命における社会主義の伝統』(Socialist Tradition in the French Revolution) 刊行。 『服従の危険』(The Danger of Obedience and Other Essays) 刊行。	1930. 第1回英印円卓会 議
1931.	コール夫妻と共に新フェビアン調査局を組織し、また地方行政委員をも兼ねる。 「国民政府」への政変において、議会政治への期待を裏切られ、それだけマルクシズムの正しさに確信を深める。 『政治学入門』(An Introduction to Politics) 刊行。これは一般の読者のために教科書風に書かれた平易なものである。 The Decline of Parliamentary Government (Discussed by H.J. Laski and Dr.J. Redlich) . 刊行。	
1.	International Affairs に論文 Communism as A World Force. を発表。	1931. 8. マクドナルド挙国 一致内閣成る(~35)
10.	Political Quarterly に論文 Some Implications of the Crisis. を発表。 Political Quarterly に論文 Tomlin Report on the Civil Service. を発表。	12. ウエストミンス ター憲章
11. 7	New Statesman & Nation に論文 Analysis of the New Parliament. を発表。	
12. 12	New Statesman & Nation に論文 Sediton. を発表。	
1932.	クリップスを首脳とする「社会主義連盟」に加入。 4. コーンウェイ・ホールの講演会において、ラスキは諸国家は主権を割愛して世界国家 (Civitasmaxima) 建設への道を歩むべきであると強調した。彼はかく一方に国家主義を批判すると共に、他方に従来のイギリス社会主義に対しても痛烈な批判の鋒先を向ける。 『法と政治の研究』(Studies in Law and Politics) 刊行。 マクドナルド挙国内閣に対する批判として『危機と憲法 - 1931年とそれ以後』(The Crisis and the Constitution: 1931 and After) 刊行。 『ナショナリズムと文明の将来』(Nationalism and the Future of Civilization, - London) 刊行。この書では国家主義を批判し、主権の制限による戦争の防止、文明の救済を述べている。	1932. 7. オタワ会議
8.	American Political Science Review に論文 Present Position of Representative Democracy. を発表。	
20	New Statesman & Nation に論文 Graham Wallas. を発表。	
9. 10	New Statesman & Nation に論文 Labor and the Constitution. を発表。	
10.	Political Quarterly に論文 Lowes Dickinson and Graham Wallas. を発表。	

年 月 日	H. J. ラスキ 個人 史	イギリス政治史
1933.  3. 4 3. 7. 1	<p>『危機に立つ民主主義』(Democracy in Crisis, - London) 刊行. The Present Position of Representative Democracy. (Where stands Socialism Today?, - London) 刊行. The Economic Foundations of Peace. (The Intelligent Man's Way to Prevent War, - London) 刊行.</p> <p>New Statesman &amp; Nation に論文 Some Notes on the House of Lords. (H.J. Laski &amp; J. Crighton) を発表.</p> <p>アメリカの雑誌 Current History の3月号に Marxism at ter Fifty Years. 発表.</p> <p>New Statesman &amp; Nation に論文 H.W. Nevinson. を発表.</p>	
1934.  1.	<p>モスクワで講義する. この講義内容について, イギリスで物議を醸し, 下院でも取り上げられ LSE にまで火がつくような様相を示した. 同じころ LSE と左派学生との紛争において, ラスキは後者を援護したという疑惑を受け, 学長のベヴァリッジ Beveridge の詰問をうける.</p> <p>Political Quarterly に論文 Underlying Assumptions of the National Government. を発表.</p>	
1935.  3. 2 4. 7. 9.	<p>『国家—その理論と現実』(The State in Theory and Practice) 刊行. この書では, ヘーゲルの系統に立つバーナード・ボザンケ等の理想主義国家論を詳細に批判し, 階級国家論の立場から, 従来の国家理論および現実の国家に分析を加えた.</p> <p>ソヴェト・ロシアへの旅行をもとにして『ソヴェト・ロシアにおける法と裁判』(Law and Justice in Soviet Russia) 刊行.</p> <p>New Statesman &amp; Nation に論文 Capitalism and War. を発表.</p> <p>アメリカの雑誌 Modern Monthly の4月号に論文「何故, 私はマルクス主義者であるか」(Why I am a Marxist) を発表.</p> <p>Political Quarterly に論文 Mr. Justice Holmes. を発表.</p> <p>Lib. Assen. Rec. に論文 Uses of Public Library. を発表.</p>	1935. 4. ストレージャー 会議
1936.  1. 3. 6. 20 10. 31 10. 11~12	<p>労働党の執行委員となる.</p> <p>『ヨーロッパ自由主義の発達』(The Rise of European Liberalism ; An Essay in Interpretation) 刊行. この書では唯物史観的方法で17世紀以後のヨーロッパ自由主義を叙述し, それが本質的には資本主義のイデオロギーであることを論ずる. The Spirit of Co-operation 刊行.</p> <p>Political Quarterly に論文 General Election, 1935. を発表.</p> <p>Labour Monthly に論文 Problems of Labour Policy. を発表.</p> <p>New Statesman &amp; Nation に論文 London Diary. を発表.</p> <p>New Statesman &amp; Nation に論文 After Edinburgh. を発表.</p> <p>Labour Monthly に論文 Labour Party Conference at Edinburgh. を発表.</p>	1936. 12. シンプソン事件
1937. 1. 3.	<p>Consumer's Coop に論文 Cooperative Education. を発表.</p> <p>Labour Monthly に論文 Unity and the Labour Party. を発表.</p>	1937. 5~1940 チェンバレン 内閣軍備大拡張
1938.	<p>『イギリスの議会政治』(Parliamentary Government in England) を刊行. この書では, イギリスの社会組織と政治との関係, 政党と議会内閣と官吏及び君主の政治的権力が, さまざまな実例によって, 極めて詳細に論じられている.</p>	12. アイルランド, エール共和国と改称
1939.  7.12~19 9. 30 10. 4 11. 11 12.	<p>Introduction to Contemporary Politics. 刊行. The Prospects of Democratic Government. 刊行.</p> <p>New Republic に論文 America Revisited. を発表.</p> <p>Liv. Age に論文 England, meet America!. を発表.</p> <p>Nation に論文 British Labour's War Aims. を発表.</p> <p>New Republic に論文 War Aims of British Labour. を発表.</p> <p>Nation に論文 On Britain's Left and Right. を発表.</p> <p>Harper に論文 Duty of the Intellectual Now. を発表.</p>	1939. 8. 英・仏・ソ, 相互不可侵条約 9. 3. イギリス・フランス, ドイツに宣戦

年 月 日	H. J. ラスキ個人史	イギリス政治史
1940.	<p>『われわれはこれからどこへ行くか』(Where do we go from here ? - The Viking Press) 刊行.</p> <p>『紳士たることの危険』(The Danger of being a Gentleman and other Essays) 刊行.</p> <p>『私は信ずる - 欧米諸名家の人生観 - 』(I believe - The Personal Philosophies of Twenty-Three Eminent Men and Women of Our Time) 刊行.</p> <p>『アメリカの大統領制』(The American Presidency) 刊行.</p> <p>これは1939年の春にインディアナ大学に招かれて、そのパットン奨学基金講座で行った一連の講義を基礎にして成ったものである。この書における彼の叙述は、形式的な憲法条文の解釈ではなく、豊富なインフォメーションと実際によって、この制度の本質を鮮明に浮彫りにしている。</p>	
3.	Current History に論文 Qualifications for the Presidency. を発表.	
5. 25	Nation に論文 British Labour excepts. を発表.	1940. 5~1945 チャー
7.	Harper に論文 Conventions and the Presidency. を発表.	チル戦時連立内閣
8. 3	Nation に論文 Henry Adams : An Unpublished Letter. を発表.	
9. 2	New Republic に論文 Letter to MacLeish. を発表.	
10. 12	Nation に論文 London ; Democracy in Action. を発表.	
1941. 2. 15	Nation に論文 British Communists help Hitler. を発表.	
3. 22	Nation に論文 Revolution by Consent. を発表.	
4.	Harper に論文 British Democracy and Mr.Kennedy. を発表.	1941. 5. ロンドン大空襲 12. 8. 対日宣戦
1942. 8. 24	New Republic に論文 Epitaph on a System. を発表.	1942. 5. 英空軍のドイツ
12.	Fornightly に論文 King's Secretary. を発表.	に対する空爆始まる
1943.	『現代革命の考察』(Reflections on the Revolution of Our Times - Allen & Unwin) を刊行. この書において、一般的に現代世界の当面する諸問題を取扱い、戦後の世界の展望を与える.	
	『マルクスと現代』(Marx and Today) 刊行.	
1. 24	ニューヨーク・タイムズに論文 Who are the real Rulers of Britain?. を発表.	
2.	リーダーズ・ダイジェストに論文 Lincoln as American. を発表.	
27	Nation に論文 Platform for the Left. を発表.	
4. 24	Saturday Review of Literature に論文 Temples of the Spirit. を発表.	1943. 5. コミンテルン解散
9. 18	Nation に論文 Russia and Labour Unity. を発表.	
12. 18	Nation に論文 Winston Churchill in War and Peace. を発表.	
1944.	『信仰・理性・文明』(Faith, Reason and Civilization - Allen & Unwin) 刊行.	
2. 12	Nation に論文 American Myth and the Peace. を発表.	
6. 17	Nation に論文 London on D-day. を発表.	
1945.	労働党の中央執行委員長の要職につき、総選挙において労働党は大勝。しかし、この選挙戦があまりに激しかったので、ノッテンガムシャーの保守党系の新聞「アドヴィガー」は、ラスキを以て暴力革命をそそのかすものだと非難した。そこでラスキはこの新聞を相手どって誹毀罪の訴えを起すが、敗訴.	1945. 2. ヤルタ会議
4. 21	Nation に論文 Note Science Lincoln. を発表.	

年 月 日	H. J. ラスキ個人史	イギリス政治史
1945. 5. 1 6. 17 8. 4 8. 5 8. 26 9. 22 10. 6 12.	Liberty Journal に論文 Liberty in the postwar World. を発表. ニューヨーク・タイムズに論文 Tomorrow's World ; is it going Left? を発表. Nation に論文 Great Britain goes Socialist. を発表. ニューヨーク・タイムズに論文 Labour Viewpoint. を発表. ニューヨーク・タイムズに論文 It's Socialism,not Communism. を発表. Collier's に論文 Socialism,British Brand. を発表. Nation に論文 Diplomats in Conference. を発表. Fortnightly に論文 French Election. を発表. Nation に論文 Plan or Perish. を発表.	1945. 6. 国際連合成立 7. ポツダム宣言 8. ~1951 アトリー 労働党内閣
1946. 4. 13 6. 15 10. 7 14 21 10. 28 11. 4 11.16~30 12. 21	労働党の親善使節としてソヴェト・ロシアを訪問し、スターリンと会見する。 『秘密部隊』(The Secret Battalion) 刊行。このパンフレットにおいてイギリス共産党との統一の拒否を表明。 Nation に論文 If Roosevelt had lived. を発表。 Nation に論文 Information Please,Mr.Mo-lotov. を発表。 New Republic に論文 On getting through to the Russians. を発表。 New Republic に論文 My Impression of Stalin. を発表。 New Republic に論文 Civil Liberties in the Soviet Union. を発表。 New Republic に論文 What Democracy means in Russia. を発表。 New Republic に論文 Truman V. Attlee on Palestine. を発表。 Nation に論文 American Political Scene. を発表。 Nation に論文 Students and Politics. を発表。	1946. 3. チャーチルの ソ連非難演説
1947. 3. 1 8. 4 9. 6 10. 4 27 11. 22 29 12. 2 13	Nation に論文 Why does Russia act that way? を発表。 New Republic に論文 Socialist Europe vs.U.S. Capitalism. を発表。 New Statesman & Nation に論文 Mote and the Beam. を発表。 Foreign Affairs に論文 Crisis in our Civilization. に発表。 Nation に論文 Power Politics spells War. を発表。 New Republic に論文 Socialist Looks at the Cold War. を発表。 Nation に論文 Is Europe done for? を発表。 New Statesman & Nation に論文 Cuckooery. を発表。 U.N. Bul. に論文 Right of Man. を発表。 Nation に論文 America,1947. を発表。	1947. 8. インド独立
1948. 1. 10 2. 15 11. 27 12. 20	『アメリカ民主主義』(The American Democracy - Allen & Unwin, London) 刊行。これは多年にわたるアメリカへの関心と愛着をもとにしたアメリカ研究の総決算ともいふべきものであり、トクヴェルの『アメリカの民主主義』(Dela Democratie en Amerique)、プライスの『アメリカ共和国』(The American Commonwealth) にも比せられている。 Road to Recovery 刊行。 『共産党宣言への歴史的序説』(Communist Manifesto, Socialist Landmark) 刊行。この書においては約100年前の西欧の状況を述べ現実のソ連を批判。 Nation に論文 Getting on with Russia. を発表。 ニューヨーク・タイムズに論文 Ever sincerely yours, O.W. Holmes ; one of the greatest of Letter Writers. を発表。 Nation に論文 Let's start over. を発表。 New Republic に論文 Truman's Task in Europe. を発表。	1948. 3. 西ヨーロッパ 五国連合条約 11. エール連邦を 離脱
1949.	シドニー・ヒルマン財団の招きでアメリカの諸大学への5週間の講演旅行をした時、ラスキは各地で赤色教授としての排撃を受ける。 『現代社会における労働組合』(Trade Union in the New Society) 刊行。この書において、アメリカ労働運動が資本主義体制打破と結びつかないことを批判。	

年 月 日	H. J. ラスキ個人史	イギリス政治史
1949. 2. 19	Nation に論文 Mr. Smythe goes to London. を発表.	
4. 25	Life に論文 Right to hear. を発表.	1949. 4. NATO 調印
7. 2	Nation に論文 America, good and bad. を発表.	
1950.	マンチェスター大学において憲法に関する講演を行なう.	
	これが彼の最後の学術講演となる.	
2.	労働党政権下の戦後第2回目の総選挙が行なわれ、肺炎をおして労働党のために演説を行なう.	
11	New Statesman & Nation に論文 From Marshall to MacMahon. を発表.	
25	Nation に論文 First fifty Years. を発表.	
3. 14	肺膿腫の破裂で逝去. (56歳)	
4.	ワールド・ホライズン誌4月号に「第3次大戦は不可避か」を発表. (死の2週刊前に脱稿)	
1951.	『議会・内閣・公務員制』(Reflections on the Constitution, the Cabinet, the Civil Service)刊行. 下院・内閣・公務員制の現状を理論的、現実的に考察.	1951. 11~1955 第2次
1952.	『岐路に立つ現代』(The Dilemma of Our Times - Prepared for Press, by R.T. Clark,1952)	チャーチル内閣
1953.	『ホームズ・ラスキ書簡集』(ed. by Mark Dewolfe Howe, Holmes - Laski, Letters,1916-1935)	